



自動体温測定器を設置しました

秋に入り、呉市内に於いても新型コロナウイルス罹患患者が増加し、小学校や幼稚園などの施設が休校になるなど、身近に脅威が迫ってきています。さらに今後冬場にかけて、インフルエンザが流行する季節も近づいてきており、発熱者への対応に一層注意をしなければならない状況下にあります。そのような状況を鑑み、このたび当院正面玄関に自動体温測定器を設置いたしました。

この機器は体温が37.3℃以上になっているかどうかを非接触で測定し、注意や警告を行う体温測定装置です。

当院入館後は必ず体温を測定し、事務職員及び看護師にご報告くださいますようお願い申し上げます。



測定方法は機器の前に記載していますが、もしお判りにならない場合はご遠慮なく職員にお尋ねください。

新型コロナとインフルエンザ

秋も深まり寒さを感じる日も多くなってきましたが、例年11月頃から流行し始めるのがインフルエンザです。

今年は新型コロナウイルスの流行もあり、インフルエンザとの同時流行が危惧されています。二つの感染症は症状が似ているため、症状だけの診断が難しく、例年通りインフルエンザが流行してしまうと、外来診療だけでなく入院診療にも大きな影響を及ぼすのではないかとされています。

そのような状況に対して、私たちは何ができるのでしょうか？

それはやはり「感染予防」につきます。感染症に対して予防に勝るものはありません。マスク、手洗い、手指消毒、3密回避、ソーシャルディスタンス、これらのコロナ予防対策がインフルエンザに対しても非常に効果的です。また、インフルエンザには予防接種もありますので積極的に接種しておくことをお勧めします。皆様一人一人の意識が、私たちの大切な家族や友人の命を守ることにつながります。全国的に飲食店の時短営業の解除や、イベント開催における制限の緩和などが行われていますが、感染症に感染する可能性が無くなっているわけではありません。いま一度意識を高め、新型コロナとインフルエンザの感染予防に努めていきましょう。

看護部 福本慎吾



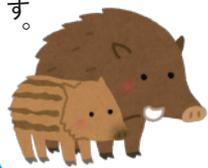
「亥の子」は主に西日本で旧暦10月最初の亥の日に行われる五穀豊穡を祝うお祭りです、今年は11月4日となります。この行事は平安時代に日本に伝わり、当初は宮中行事として行われていました。たが、刈入れの時期と重なることから、収穫のお祭りとして、また亥（イノシシ）が子供を沢山生む事に因んで子孫繁栄の願いを込めて庶民の間に広まったといわれています。

「亥の子餅」は「亥の子」の日に食べる餅で、イノシシの子ども「ウリボウ」の模様を餅の表面に付けたたり、ウリボウの形に似せて作られ、これを田や畑の神様に供えたのちに家族で食べると来年の豊作や無病息災、子孫繁栄の願いが叶うと信じられています。

他に「亥の子」には「亥の子突き」という行事が行われ、子どもたちが「亥の子石（いのこいし）」と呼ばれる、藁を束ねた藁鉄砲や荒縄で縛った丸石を持って「亥の子歌」を歌いながら家々を訪ね、藁鉄砲で地面を叩いたり丸石で地面をついたりする「亥の子づき」を行います。

これは土地の邪霊を鎮め、神様に力を与えて豊かな収穫を祈る風習ですが、この時期になると「亥の子突き」の準備や歌の練習に時間を取られ、宿題や勉強がおろそかになることなどから昭和40年代に亥の子行事を禁止する地域が多くなり、今では一部の地域を除いてほとんど見かける事がなくなっています。

なお、安芸郡海田町などでは今でも「亥の子歌」は残っているようです。また、イノシシは「摩利支天」の神使で火を制御すると信じられており、この日に炬燵（こたつ）や火鉢を出して使いはじめると火事が起こらないと言われ、立冬が近づき冷え込む時期でもある事から、昔は「亥の子」の日に「炬燵開き」や「炉開き」が行われていたそうです。



亥の子 (いのこ)

診療案内

月曜日～金曜日 午前：9時～12時 午後：4時～6時
土曜日 午前：9時～12時 午後：休診
休診日：日曜・祝日・年末年始(12月31日～1月3日)・お盆(8月15日)

担当医

月曜日	午前：青山	午後：内科(交代制)	木曜日	午前：大村	午後：宮里
火曜日	午前：宮里	午後：大村	金曜日	午前：宮里	
水曜日	午前：大村	午後：卜部・森本 (腎臓内科)	土曜日	午後：井料(脳神経内科)	午前：内科(交代制)

季節の風景



初霜